

## 令和5年度第1回諫早市在宅医療・介護連携推進会議

### 【「ACPについての冊子を活用した普及啓発について」意見交換まとめ】

#### <現状>

- ・病院で患者に手渡しをするが、実際にどのように記入しているか分からない。
- ・現行の冊子は最初の導入やとっかかりには使いやすいが、具体的にどうしていきたくないか、という現場では使いにくい。
- ・表紙のところに「自分の最後を」と書いてあるものを渡されると、相手が自分の死期が迫っていると思ってしまう部分もあるので、渡すタイミングが難しい。
- ・この冊子をすぐ出したら、多分嫌がられる。だからその前に、何回も話合いをしたり、使ってもらえるまでに何度も石を投げてつなぐことが必要。

#### <配布方法>

- ・葬儀場や火葬場のような場所に設置すると、自分のことを考えるきっかけになるのでは。
- ・対象を絞って配付をしてしまうと、診断の中で自分は死期が迫っているのではないか、悪化しているのではないかと思われるので、入所や入院・外来など、広く最初のときに配布し書いてもらう方が良いのでは。
- ・65歳以上を対象に、介護保険証を発送するタイミングで配布しては。

#### <改善案>

- ・紙媒体だと残しにくいところがあるので、A4の1枚ぐらいで電子的に残せるようなものであれば、より現場で活用しやすいのではないかと。
- ・他市町では「花道ノート」みたいな言葉で作っている冊子があるようで、そういった名称だと「今からどう生きていくかを考えるもの」になり、専門職も使いやすい。
- ・冊子の中身にもう少し注釈や補足、書き方ガイドがあれば書きやすいのでは。「死期が迫っている」想定で記入するとしてあるが、その死期が一カ月後か、半年後か、などの設定でも変わってくる。
- ・薬局は利用者が多いので、薬局のモニターでACPの説明、冊子に記入するための前後の話などを流しては。

#### <その他>

- ・自分たちのような啓発する側がまず家族や身近な人を相手に活動するべき。
- ・訪問看護の経験からすると、家族の意見が違って苦しまれることもあり、この冊子を活用してグリーフケアにも役立てられたらと思う。
- ・ケアマネの研修で実際に冊子に記入し、必要性を実感した。自分の担当本人やその家族に冊子の必要性を伝えるためには、まず自分の身に置き換えて使ってみることが大事。